

■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

日常生活に取り入れた マルチメディアDAISY図書を活用

東京都立八王子東特別支援学校
毛利 磨衣子

はじめに

本校は、小学部1年生から高等部3年生までの児童・生徒が在籍する肢体不自由特別支援学校です。通学籍の児童・生徒のほかに、教員が家庭や病院に訪問し、指導を行う訪問籍の児童・生徒が在籍しています。教育課程は自立活動を主とする教育課程、知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程、準ずる教育課程の3種類あり、自立活動を主とする教育課程の子どもたちが多く在籍する学校です。医療的ケアを必要とする子どもも在籍しています。2012年度より、わいわい文庫利用研究校となり、マルチメディアDAISY図書は、貸与されたタブレット端末（iPad1台、iPod10台）および校内のタブレット端末（iPad 9台）に導入して活用しています。

本校の読書活動

本校の読書活動は、学校経営計画に取り組み目標として設定され、全校で多彩な読書活動を行ったり、地域の図書館と連携を図って読書・言語活動の

充実を図ったりしています。毎年6月・11月の読書月間には学部ごとに読書冊数を競い、読書月間以外の時期にも児童・生徒による読み聞かせの会を行い、さかんに読書に関する活動を行っています。昨年度は新しい試みとして、自分の読んだおすすめの本のPOPを作り、ビブリオバトルを行って全校で投票を行う活動に取り組みました。今年度も、コロナ禍でさまざまな行事が中止となる中、校内で取り組める行事として引き続き継続しています。

読書環境として、学校図書館はスクールバス玄関を出てすぐのホール隣にあり、子どもたちがよく通る位置に配置され、書棚の高さや展示の仕方も、車いすの子どもたちが利用しやすいように工夫されています。

年度初めに学校図書館において、図書館使用の際のきまりや蔵書の紹介をオリエンテーションで子どもたちに伝えています。今年度も感染症拡大防止のため、学校図書館に集まってオリエンテーションを行うことはしませんでした。代わりにオリエンテーション

で話す内容をDVDにまとめ、各教室で子どもたちに周知できるようにしました。その中で、それぞれの困難さに合わせた読書のあり方として、マルチメディアDAISY図書の紹介も行っています。

このように全校的に読書活動の推進に取り組む中で、マルチメディアDAISY図書を日々どのように活用していくのか、それぞれの子どものニーズに合わせた活用方法を以下にご紹介いたします。

マルチメディアDAISY図書の活用事例

(1) マッサージの合間に読書に親しむ

小学部4年 Aさん

小学部4年Aさんは常時医療的ケアを必要とし、自立活動を主とする教育課程に学ぶ子どもです。Aさんはふだん車いすに乗って過ごしていますが、車いすに座っている姿勢では排痰が難しいことがあるため、床に降りて姿勢変換を行い、マッサージをすることが必要です。

そこで、Aさんはうつ伏せ用のクッションを使って定期的にうつ伏せ姿勢を取り、排痰を促しています。これまではクッションにうつ伏せになり、マッサージを受けるだけでしたが、このうつ伏せの時間にマルチメディアDAISY図書を活用してみました。マッ

サージを受けているだけだった時は、顔を下げた視線を落とし、つまらなそうでしたが、マルチメディアDAISY図書を読むことによって、目をしっかり開け、集中して物語を聞くようになりました。時にはiPadを近くに持っていくと、顔を自分から上げてiPadの方を見ようとする姿も見られ、お話を聞くのを楽しみにしている様子がうかがえました。その結果、排痰の時間に楽しみが生まれ、長時間うつ伏せをすることにつながりました。

よく聞く題材は『わたしのワンピース』、『11ぴきのねこ』、『ケーキ・ケーキ・ケーキ』など、絵がはっきりしているものや短いフレーズが繰り返されているものだと聞きやすく、興味をもって聞いています。

日常の何気ない時間をマルチメディアDAISY図書で読むことによって、楽しい時間、本の世界へ親しむ時間としています。



(2) 図書との出会い

中学部1年 Bさん

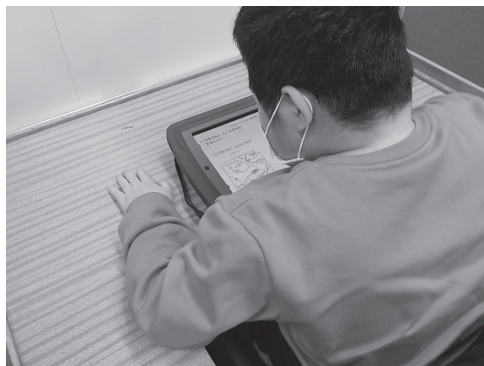
中学部1年Bさんは、知的障害を併せ有する生徒の教育課程で学んでいます。集中して物事に取り組むことが課題ですが、興味関心のあることであれば一定の時間集中して取り組むことができます。

読書に対しては、興味関心があるものの、自分で文字を見て文章を追いつけることがむずかしかったため、自立活動の時間にマルチメディアDAISY図書の活用を始めました。

マルチメディアDAISY図書にはたくさんのお本があり、どの本にするか選ぶところからとても楽しそうな様子が見られました。

また、音声で読み上げられているところの背景に色がつくので、どこの文章を読んでいるのか一目でわかるため、集中して楽しく本を読み続けることができます。さらに、マルチメディアDAISY図書を活用することで、タブレット端末の扱いも上手になり、自分で操作をして本を読むことができるようになりました。

今後もマルチメディアDAISY図書を活用し、より多くの本と出会い、楽しく充実した読書の時間を過ごしてほしいと思います。



(3) 個別課題学習と余暇指導で読書の機会を

高等部2年 Cさん

高等部2年Cさんは、自立活動を主とする教育課程で学ぶ生徒です。興味関心の幅が広く、さまざまな学習に意欲をもって取り組むことができます。また、課外活動では小学部の頃より部活動を通してスポーツに親しんでおり、さらに放課後デイサービスやショートステイの利用によって社会経験も豊かに積んでいます。

現在高等部2年生の段階では、卒業後の生活を見据え、「より自立して一人で楽しめる力をつける」こと、「余暇の充実」を意識してマルチメディアDAISY図書活用の時間を設けました。

1つめは「自立活動」で取り組んだ個別課題学習、2つめは給食後に体を休め、整えている時間です。個別課題学習では、初めは教員がそばで言葉かけをしながら絵本の内容に親しみ、回

数を重ねるごとに支援を減らしていくことで画面に一人で集中し見る・聞く時間が少しずつ増えていきました。給食後の時間は、体や目を休めていることもあります。活動的な日もあるので、友だちと何かを楽しむ活動の一つとして動画の視聴や音楽鑑賞の他、マルチメディアDAISY図書も取り入れました。今後、マルチメディアDAISY図書での読書が好きな活動として定着した際には、居住地域の図書館の障害者サービスでマルチメディアDAISY図書を借りるなど、卒業後の余暇の充実につなげていきたいと思えます。



このように、楽しみとしての読書、読書教育の導入として、また卒業後の生活を豊かにする一手段として、マルチメディアDAISY図書を活用し児童・生徒の読書の可能性を広げています。何気ない日常のふとした時間に、マルチメディアDAISY図書が活用できることは、肢体不自由のある子どもたちにとって大事な読書の機会となっています。

